

# 視 察 報 告 書

- 1 視察日  
令和5年7月13日から7月14日まで
- 2 視察先  
令和5年7月13日（木）北海道登別市役所  
令和5年7月14日（金）北海道千歳市防災学習交流センター「そなえーる」
- 3 調査項目  
登別市  
・宅配ボックス購入補助事業について  
・登別市議会改革の取組について  
千歳市  
・千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について
- 4 視察参加者（3名）  
染谷和博、齋藤久代、久保田真澄（オンライン参加：落合信太郎）
- 5 視察行程  
別紙のとおり
- 6 視察報告  
別紙のとおり

上記のとおり報告します。

取手市議会議長 金澤 克仁 殿

令和5年8月17日

取手市議会会派公明党 代表者 染谷 和博

# 茨城県取手市議会会派「取手市議会 公明党」

## 行政視察研修行程表

※ 北海道内は、レンタカー（1台）で移動

○ 7月13日（木）

ANA059

取手駅……………品川駅……………羽田空港……………新千歳空港……………  
10:00 発 11:35 着

……………登別市視察研修……………宿泊地  
14:00～15:30

○ 登別市議会事務局

住所：北海道登別市中央町6丁目11番地

電話：0143-85-9220

※ 研修事項

宅配ボックス購入補助事業について

登別市議会改革の取組について

### 【宿 泊】

登別万世閣

住所：北海道登別市登別温泉町21番地

電話：0570-08-3500

○ 7月14日（金）

宿泊地……千歳市視察研修（そなえーる）……

10:00～11:30

AIR DO 028

……新千歳空港……羽田空港……品川駅……取手駅

16:00 発

17:40 着

○ 視察説明場所：千歳市防災学習交流センター「そなえーる」

（こちらで視察説明をお受けします。）

住所：千歳市北信濃 631 番地の 11

電話：0123-26-9991

※ 研修事項

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について

○ 千歳市議会事務局

住所：北海道千歳市東雲町 2 丁目 34

電話：0123-24-0791（直通）

## 行政視察報告書

取手市議会議員 齋藤 久代

1 視察日

令和5年7月13日（木）

2 視察先

北海道登別市役所

3 調査項目

- ・宅配ボックス購入補助事業について
- ・登別市議会改革の取組について

4 視察内容

(1) 宅配ボックス購入補助事業（再配達削減チャレンジ事業）

視察受入担当

登別市民生活部 環境対策室 室長田中弥寿雄氏他2名

公明党 染谷和博、久保田真澄、齋藤久代

（オンライン参加：落合信太郎）

質問事項（あらかじめ公明党として提出したもの）

- ① 補助対象として「複数個が共同で使用することを目的として設置するものでないこと」と決定した理由は。

答 アパート経営者のインセンティブになるのを避ける。

アパート住人はOK。

- ② 対象となるボックスを新品にした理由は。

答 防犯機能を満たすことが要件にあり、必然的に新品になる。

- ③ 取扱事業者が2事業者となった背景は。

答 市内に経済効果があるように、市内の業者に限定した。実取扱事業者は2事業者。

- ④ 初年度の申込件数は。

答 事前応募数99名（申請37名）実際の申請が少なかった理由は取扱商品がなくなった（販売ルートが決まっている）ことと、価格が様々で安いものも販売されているため。

- ⑤ 評判や感想は。

答 受取を指定しても利用者は待機が必要になるため、便利。

⑥ 今後の取組については。

答 今後も補助を実施する。

今年度も目標 100 世帯として 7 月 7 日から募集中（8 月 10 日まで）であり、12 件の申し込みあり。

#### 背景と現状

- ・登別市は令和 4 年第 1 回登別市議会定例会の市政執行方針で「ゼロカーボンシティ」への挑戦を表明、2050 年にゼロカーボンニュートラルの実現を目指しており、令和 5 年度からは「登別市湯の国ゼロカーボンシティ重点対策加速化事業計画」に基づき取組を推進しているところである。また、地域ではドライバー不足が深刻であることと、燃料費高騰も続いている。
- ・家庭で取り組む CO2 削減推進のための支援のひとつ（他には生ごみ処理機）。
- ・再配達が無料なこともあり、この制度を知らない人もまだいる。更に周知をはかっていきたい。
- ・CO2 削減量については、国交省の計算式あり。市内全世帯に対する目標は設定していない。

・昨年度（令和 4 年度）から取組開始、10/10 の補助率 上限 1 万円。

周知は HP や広報、LINE、Facebook、チラシ、宅配業者さんにも配布。令和 4 年度の事業費 86 万 7914 円（内訳 32 万 9684 円（宅配ボックス）53 万 8230 円（チラシ））。

令和 2 年に「気候非常事態宣言」を表明し、取手市においても 2050 年を目指して CO2 実質ゼロを目指して取り組んでいるところである。より多くの市民を巻き込み、家庭部門からの CO2 削減を進める方法のひとつとして、取手市での取り組みも提案したい。

#### (2) 議会改革の取組についての意見交換

登別市議会 辻 ひろし議長 村井寿行副議長 小栗義朗議員

取手市議会 染谷和博、久保田真澄、齋藤久代

（オンライン参加：金澤議長、落合副議長）

早稲田大学マニフェスト研究所が実施する「議会改革度調査 2022」でランキング 1 位を獲得された、登別市議会の取組について意見交換（取手市議会は 2 位（3 年連続 3 位以内（1 位・1 位・2 位））お互いに議会の改革に積極的に取り組んでいる議会として、登別市議会の取組を直に聞かせていただいた。

「開かれた議会」から「多様性のある議会を実現」を目指している登別市議会の取組の中で、取手市議会にないものは、議会サポーター制度で「市民サポ

ーター」と「専門的サポーター」（取手市議会の専門的知見の活用と類似）がある。市民サポーターは委員会で必要と認められたときに、参考意見を述べることになっている。

また、「議会フォーラム」（取手市議会の意見交換会）で、高校生に積極的に呼びかけ、実施されたとのことや、さらに、議会傍聴者の受け入れにおいて学校の授業時間に合わせて柔軟に議会の日程を調整（時間をずらした）実例をお聴きし、多様な意見を求める意欲を感じるようになった。

地域の議会の歴史的な経緯も説明いただいたが、選挙で議員の入れ替えがあっても、委員会としての活動計画書が作られ、全員で、それに基づき活動されて報告（公開されている）、実績を積まれていることに敬意を表したい。今後も交流しながら、市民から信頼される議会の役割を果たしていきたい。

忙しい中、辻議長はじめ、村井副議長、小栗議員には、意見交換に対応していただき感謝です。

大変ありがとうございました。

以上、登別市の視察報告とします。

## 行政視察報告書

取手市議会議員 久保田真澄

### 1 視察日

令和5年7月14日（金）

### 2 視察先

北海道千歳市防災学習交流センター「そなえーる」

### 3 調査項目

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」について

- ① 千歳市がそなえーるを建設した経緯
- ② 展示コーナーなど項目が充実しているように見えるが、開設当初からの変更点や改善を加えた点
- ③ そなえーるでの高層建物からの避難器具体験、緩降機での降下体験、救助袋での降下体験を取り入れた背景
- ④ 防災学習交流センター「そなえーる」の整備前後で、市民の災害に対する考え方に変化があったか
- ⑤ 学習担当者の資格や経験があれば、また、学習担当者のスキルとして重きを置いている点は
- ⑥ 小学生や中学生への学習の手法。また、「毎年、市内の全ての学校の特定の学年」、「小学生で1回・中学生で1回は学習する」などの頻度の配慮があればご教示下さい
- ⑦ 貸館業務や「防災の森」の利用状況
- ⑧ 備蓄品の状況

### 4 視察内容

防災学習交流施設は、総面積約8.4haで、A・B・Cの3つのゾーンからなり、Aゾーンは、広さ4.3haで3階建て延べ面積約2,300㎡の防災学習交流センター「そなえーる」をはじめ、広さ約2.4haの防災訓練広場、ロープ訓練棟、防災備蓄倉庫を兼ねた副訓練棟、常設ヘリポート、駐車場などを完備しています。

「そなえーる」は、災害を「学ぶ」「体験する」「備える」をテーマに災害の擬似体験や防災学習を通じて、防災に対する意識を高めてもらう事を目的に、起震装置、煙避難装置、予防実験装置、避難器具などを備えた施設です。

Bゾーン「学びの広場」は広さ1.1ha、造成に伴う雨水貯水池と消火体験や救

出体験を通し、自助・共助を学ぶ広場になっています。

Cゾーン「防災の森」は広さ3haで約150人がキャンプに利用できる「野営生活訓練広場」と貯水池を兼ねた「多目的広場」湧き水を利用した「河川災害訓練広場」「土のう訓練広場」、さらにアスレチック遊具などを備える「サバイバル訓練広場」のほか管理棟、駐車場を配置し、共同作業が体験できる広場となっています。

市民の防災意識を高めるため、千歳市総合防災訓練や、町内会、自主防災組織等による消火・救出等の防災訓練、救急救命率の向上のための救急講習会、市民を対象とした千歳市民防災講座や町内会、自主防災組織及び事業所等を対象とした防災関連講座、防災イベントなどの事業を展開しています。

防災学習交流施設の利用状況は、平成22年度37,644人、平成23年度58,393人、平成24年度48,615人、平成25年度47,484人、平成26年度44,339人、平成27年度42,027人、平成28年度39,526人、平成29年度41,891人、平成30年度36,063人、令和元年度38,345人、令和2年度18,078人、令和3年度12,074人、令和4年度19,226人で開設から13年目を迎え、483,705人となりました。

今後の予定は、防災学習や、災害模擬体験などを通じて、関心を一層高めるとともに、市民、自主防災組織及び防災関係の意識付けを継続して進める予定です。

今後の課題は、防災面以外でも様々な分野で施設や各種講座の活用ができるよう、施設運営を工夫していく必要があること。大規模な改修や体験コーナーの新設に多額の経費が予想されるため、予算確保が大きな課題です。

地震体験コーナー、煙避難体験コーナーを実際に体験する事で、災害についての恐怖、困難さを体感しました。

「学ぶ」「体験する」「備える」がテーマの「そなえーる」は、市民や防災関係機関の防災力を高めるものです。

以上、千歳市の視察報告とします。